

第3回 武蔵野市歴史資料館（仮称）検討有識者会議

日 時 平成16年6月7日（月）午後6時00分～8時30分

場 所 延命寺

出席者 土屋市長、小池牧子委員、中里崇亮委員、西脇康委員、舩崎尚委員

1. 意見交換及び提案

【委員】

浦安市郷土博物館の視察のご感想などをお聞かせいただきたい。

【委員】

ふるさと武蔵野の意識を高揚させていこうと、開村百年の記念事業として、この歴史資料館で公文書を中心に見てもらおうというところが開始点。そこで、展示と実体験をどう組み合わせしていくのか、どこまで広げられるのかということがポイントになってくると思う。そのあたりを今日も含め、議論していけたらと思う。

【委員】

「浦安は外から見ると、順調に進んで内容も濃いものになっていると評価されるが」と浦安の学芸員の方が前置きしながらこうおっしゃっていた。「絵本の企画のときにはゴタゴタがあり、市民の方といっても複数いらっしゃるわけで、意見も異なる。さまざまな思いを統一するにも大変な苦労がある。」

このような大変さも踏まえた方がよい。あまり楽観視しすぎるのも良くないが、かといって、窓口を狭めてしまうことになるのも良くない。そのあたりのさじ加減が難しいなと思う。

【委員】

私は先週浦安へ行ってきた。幼稚園の子どもがあそこへ行くと、ボランティアの方が浴衣に着替えさせてくれるそうだ。浴衣を着て子ども達が遊んでいるところに、関西からの視察の委員さん達もいらして賑わっていた。武蔵野とは大分条件が違うという感じを受けた。西脇先生のエコ・ミュゼの『街が博物館』や小池委員のマップをぜひ盛り込むべきではないかと思う。それから、浦安は学校との連携がうまく出来ていると思う。総合学習というかたちで、武蔵野でも学校の児童たちが頻繁に来館するようになれば良いと思う。浦安郷土博物館も来館者12万人を切らないように催しを考えるのは大変だとおっしゃっていた。

【委員】

私たちが行ったときはとても暑い日で、中庭に氷の彫刻を置くなどの仕掛けをされていた。

【委員】

講演のような催しを特別展の時には必ず行うそうだが、お客さんは「講演」という堅い響きを聞いただけで来なくなってしまいうさそうだ。子どもが喜ぶようなイベントには、大人も一緒になってやってくるが、「お勉強しましょう」という催しには、決まった顔ぶれの人に来てくれるかどうかという位なものようだ。「一緒に参加して何か作って持って帰りましょう」というものが受けるだろう。パネルを見て回るだけではなく、民俗芸能を伝達したり、お祭りをしてみたり、とさまざまな方法で利用できる大ホールのような空間があると良いと思う。「今月は縄文時代のもの、来月は古墳時代のもの」というように、武蔵野の宝を小出しに展示するとリピーターの獲得が狙えるのではないかと。「市民の方の企画展」という枠を作って公募をしても良い。人を引きつけるには、参加型であるべきだ。さらに文化財の散策マップについては、道を先導してくれる人がいる

と良いと思う。なかなか人に道を聞くのはおっくうだし、小さなツアーのようなものを作ってはどうか。野外体験的なものだと、指導者になりたいという人も多いのではないかと思う。

【委員】

浦安には移築した建物があり、古いもので屋根裏までのびているはしごがある。普段はあそこに「登ってはいけません」と書かれているが、あれで見ている人はちゃんと分かるのだろうかと思ってしまう。つまり、子どもでも大人でも、20代のお母さんくらいになるとあの時代の経験がないわけで、普段の生活でも、魚を買うのに魚屋さんへ行くこともなく、スーパーに置いてあるものを買ってくる。つまり、そこに用意されているものに対して関わるというだけでは、歴史を語る素材として不足しているのではないだろうか。「施設が移築されました。どうぞご覧ください。」では真実味が無い。カッターナイフの扱いにしても、自分で鉛筆を削ってみて怪我をするという経験が、今の子どもたちやその親にもない。

【委員】

モノを集めて飾ってあるだけでは、なかなか人は集まらない。そこに「私はこれをこう使っていました」という話を語ってくれる人がいると、お客さんが来てくれると思う。

【市長】

まず郷土に愛着をもってもらうということと、文書館(文書による記録)というものをどのように伝えていくかということが重要だ。

【委員】

文書館と実物展示をどうマッチさせるかということが、一番難しい。どこの資料館や郷土館へ行っても、まず実物の方が優先されていて、文書を見るということはほとんどない。武蔵野の歴史資料館には、興味を引くような物を置いて、まずは来てもらうことを大事にするべきだ。そこから、展示内容を奥深いものにしていけばよいと思う。

【市長】

文書といっても、アメリカの公文書館などには「誰の意志決定で原爆が落とされたか」などの世界史に影響を与えるような文書があるが、武蔵野市にはそのようなスケールのものがない。例えば、武蔵野市政のなかでも論争のあったものを見せるということも行政の見識としてはあるかもしれないが、それでは研究者のための展示になってしまう。ただ、私が市長に就任してからこれまでの20年ほどで集まった色々な資料にも、思い入れのあるものがあるので、どこかでそういったものも残しておきたい。

【委員】

やはり写真や映像というものは、人が興味を示す一番の対象だと思う。歴史上の風景を伝えるには、最も分かりやすいメディアだ。例えば、高波が来たときの被害はどれほどだったかという情報が画像で分かるようにすると、「それについてもっと多くの資料はないだろうか」という具合に深く調べてみようという気持ちになると思う。始めのきっかけとして画像メディアは有効だ。

【市長】

民俗資料を集めて常時それを保存するのは大変。浦安の場合、武蔵野とかなり様子が違う。埋め立てをすれば敷地は無尽蔵にあるが、武蔵野市の場合敷地には限りがあり、

展示も収蔵も何もかもというわけにはいかない。また漁師町でもないのだから船を浮かべるわけにもいかない。

【事務局】

浦安には船を造る工房が設けられている。そこに船大工の人が来て教えているが、その活動が「モヤイの会」の一環になっている。

【委員】

そこで造られた船に乗れるようになっている。

【委員】

浦安の場合は、古くからの漁師さんや住民を中心としている。言ってみれば、価値観が同一の人々が集まっているわけだ。その方たちがいるからできる活動だと思うが、これから先10年経ったらどうなるか分らない。武蔵野市の場合は、そういったものが無い。

【委員】

農業がある。農業を体験できる公園を作るという考え方もある。

【事務局】

武蔵野市には、歴史的に大きな出来事や事件がないが、それを前提に展示を考える必要がある。

【委員】

玉川上水は武蔵野にも流れている。浄水場は、今は東京都のものだが歴史的に見れば武蔵野市のものだ。

【市長】

武蔵野市にも散策コースはいっぱいある。街が博物館という考え方もある。ボランティアの人が案内役になってもらうというのもいい。なんとなく施設の方向性はわかるが、具体的なイメージが定まらない。

【委員】

案内役を育てるための「養成講座」を開催し、自然・歴史・民俗・芸能など様々な講座をつくり、そこで単位をとれるようにする。テストも行う。そういう仕組みがなくてボランティアに任せっぱなしというのは駄目。学術的に間違いのないことをしゃべってもらえるよう養成するのは必要だと思う。バスガイド的なマニュアルアナウンスでも構わない。

【市長】

現世では、例えばライブハウスを写真に撮って見せられるかもしれない。画家が武蔵野に多く住んでいたこともある。人にスポットを当てれば、シリーズとして長期的に見せられるかもしれない。都西タイムズなど武蔵野市の市政を題材に記事を書いているが、市政の二面性がいきいきと書かれている。